

国際交流活動報告・二〇一五年

(二) 韓国外国語大学校でのシンポジウム共催について

わたくしども立教大学大学院・日本文学専攻は、海外5大学と提携を結び、さまざまな交流活動を行ってきた。今年度はその一環として、韓国外国語大学校と国際シンポジウムを共催した。プログラムは以下のとおり(今後、こうした国際交流活動について、随時その報告を掲載していく予定である)。

* * *

韓国外国語大学校日本研究所 二〇一五年 国際シンポジウム

「日本文学の研究と教育——韻文と散文のコラボレーション」

主催・韓国外国語大学校日本研究所・立教大学日本文学会

日時・二〇一五年十月三十一日(土) 一三時～一八時

場所・韓国外国語大学校 教授会館・講演室

開会式・司会 金鍾徳(韓国外国語大学校)

開会の辞

李相薫(韓国外国語大学校日本研究所長)・

小嶋菜温子(立教大学日本文学会)

祝辞 崔鍾讀(韓国外国語大学校副総長)

第一部 「日本での国文学研究と教育」

…司会 崔在喆(韓国外国語大学校)

「物語と和歌——源氏物語作中歌の「ルール」をめぐる」

加藤陸(立教大学)

…討論 崔忠熙(韓国外国語大学校)

「いくさの記憶と物語——『平家物語』と『平家絵』のあわいから」

鈴木彰(立教大学)

…討論 趙恩鶴(崇実大学校)

「俳諧と浮世草子の関係性——西鶴作品を中心に」

水谷隆之(立教大学)

…討論 李炫瑛(建国大学校)

第二部 「韓国での日本文学研究と教育」

…司会 小嶋菜温子(立教大学)

「韓日宮廷女流文学の研究と教育」

金鍾徳(韓国外国語大学校)

…討論 金裕千(祥明大学校)

「古典と日本文化の教育——「孝」と「家」について」

文明載(韓国外国語大学校)

…討論 原克昭(立教大学)

「原爆文学の詩歌や小説——原民喜を中心に」

徐載坤(韓国外国語大学校)

…討論 朴相度(ソウル女子大学校)

総合討論…司会 小嶋菜温子(立教大学)

右プログラムは、韓国外国語大学校日本語日文学科のスタッフ・出身者（立教大学大学院での学位取得者も含めて）と、関連分野の他大学の専門家との協力のもと、立教大学日本文学専修の古典部門メンバー全員が参加しての構成である。

第一部「日本での国文学研究と教育」。「源氏物語」作中歌の解釈をめぐっての、和歌研究から新しい知見（加藤氏）。「平家物語」と（平家絵）

の相互関係を歴史的に問い直す視座（鈴木氏）。そして『好色一代男』などの浮世草子と俳諧の表現を繋ぐ雅俗の二重性の別袂（水谷氏）。

それらの日本側からの報告を基に、各討議者（コメンテーター）が総括と質疑を行った。それらを受ける形で、教材としての日本古典文学の扱いをめぐって、日韓研究者のあいだで

活発な討議が交わされた、

第二部「韓国での日本文学研究と教育」。「閑中録」等の朝鮮王朝文学と『源氏物語』との対比をとおして、韓日の文化・歴史の比較する提言（金氏）。韓国の説話集『三国遺事』と『今昔物語集』の比較をとおして、「孝」や「家」をめぐる韓日の文化や思考を対比する視点（文氏）。そして原民喜の原爆文学における韻文と散文の交差についての提言（徐氏）。それらの韓国側からの報告を基に各討議者（コメンテーター）が総括と質疑を行った。それらを受ける形で、韓日の文化比較を含めての日本文学研究と教育の今後に向けての有意義な討議が交わされた。

以上の如く、本シンポジウムの一部・第二部をとおして、総合テーマである「日本文学の研究と教育——韻文と散文のコラボレーション」をめぐる、日韓の研究者の意見交換と広範な議論が交わされた。締めくくりに総合討論にあっても、鋭く有意義な意見交換を果たすことができ、期待以上の意義深い交流を行うことができたことに感謝したい。相互の研究課題として、日本文学の研究・教育が、それ自体において享受史の一環であることを如何に意識化していくかということが浮かび上がったといえる。

立教大学大学院日本文学専攻と韓国外国語大学校日本研究所の協定は二〇〇八年に締結され、さまざまな交流を続けてきている。今回は、今後もこの提携関係を引き続き推進し、研究・教育における交流活動においてさらなる成果を重ねるべく努力することを互いに確認しあう場となった。最後に、韓国外国語大学校の金鍾徳氏をはじめとする諸先生方のご尽力に心から感謝申し上げます。

（文責 小嶋菜温子）